

窓

—同窓会だより—

No. 113 (令和 4. 8. 13発行)

富山県立魚津高等学校同窓会



- 1面 同窓生寄稿
- 2面 同窓生寄稿
- 3面 同窓生寄稿
- 4面 魚高生の活躍、お知らせ



「地図に残る仕事」

黒部市副市長 上坂 展弘 (魚高32回)

今から45年前の高校一年の時、私たちの数Iaの授業で教壇に立っていたのは副校長のT先生だった。テンポのいい口調で説明も明快、歯切れもよかつたが、とにかく口が悪かつた。今なら、保護者やマスコミから痛烈な批判を受け、関係者が右往左往するだろうけれども、その頃はまだ時代が寛容だったのだと思う、これが通常の授業の風景なのだと思ふに受け止められていた。しかし、「〇〇〇子くん、〇点」と名指しで試験の点数を公表され周囲の暖かい微笑みに包まれた生徒(3人だったかな)はとても穏やかではいられなかつただろうし、手を挙げて「先生、こんな解法もあります」と得意げに訴え、先生から「そりやよかつたね」と愛想なく一言だけ返された生徒は「よかつた」はずがない。

私が暮らしていた家の周りは、田んぼが広がり街灯もなく、晴れた日の夜に空を見上げると一面に星が輝いていた。思春期の私は星空を眺めるのが好きで、いつかドーデの「風車小屋だより」にあるような情景に巡り会えたなら、夜空の蒔蓄をひと語り披露しようと思ふ星に関連する図書を見開きするなど多少じたばたもしたが、当たり前のようにそんな機会は来なかつた。その頃「宇宙戦艦ヤマト」という宇宙を舞台にしたアニメが流行っていて、私は、そのアニメに登場するキャラクターで、宇宙空間での長い旅の途中で訪れる様々な困難に科学の力で立ち向かう真田隊員に憧れ、真理を追求する科学者になりた

いと、夢か思っていた。

先のT先生の授業では、生徒に黒板で問題を解かせることがよくあつた。その際の先生の口述がまた辛辣で、今となつては正確ではないが「この問題が解けなかつたら、土木工事をやるかビニールハウスで野菜でも作ってください」といった感じで生徒を揶揄、激励し、そんな先生の口上が面白くて周りも私も大笑いしていた。私がそうした場面でも出題された問題を解けたか解けなかつたかは覚えていないが、私は高校を卒業したあと土木工学科に進学し、先生が揶揄しみんなが笑つた土木工事に携わることになつた。

T先生の言葉にもあるように「土木」はとにかくイメージが悪いようだ。1980年代には建設業の職場が「3K」という冠をいただき、学ぶ内容が変わらないにもかかわらず、国立大でも私立大でも「土木工学科」という名前がほぼなくなつて「環境工学科、都市工学科、社会工学科」といった多少聞こえ

のよい名前に代わつていった。

土木により建設されるものは、長大橋やダムなど地域のランドマークになるものや、道路や公園、上下水道など生活を支えるもの、堤防、河川の護岸、砂防堰堤など安全確保に欠かせないものなど幅広い。近代の土木技術の一端は明治以降の鉄道建設によつて培われた部分が大いにある。少し逸れるが、明治元年頃の日本の人口は3600万人ほどだったらしい。ちなみに秀吉の頃は1500万人程とも言われている。日本の鉄道網は、明治初期から大正初期までのたった50年足らずの間に日本全国に張り巡らされている。北陸本線も青海く糸魚川間が大正2年に完成し全線開通となつた。今のような圧倒的な機械力もない時代に、人口が今の三分の一しかない時代(もちろん年代構成は違うだろう)に驚くべきことではないだろうか。今、私たちはこれまでに経験したことのない本格的な少子高齢化・人口減少時代を迎え、否が応にも抑鬱的な気分になりがちだが、こうした近代日本が世界に向けて出航しようとしていた時代の一人一人の逞しさを思い出し、活力のある未来を切り拓いていきたいと思ふ。

完成した土木構造物は、その後長くその場所に存在し地図にも載るし、建設に携わつた多くの人たちのいい思い出にもなる。私は現場で砂防堰堤の建設に携わることがあつた。魚津市桃山運動公園の近くにある越後平川砂防堰堤で、すぐ側には新川広域圏の斎場がある。土石流を防ぐ堰堤で、前面は自然石で化粧されており、斎場からよく見える。この堰堤が完成して25年ほどになるが、その間に、私は、祖父、母、父、母、そして妻をこの場所でおくることになつた。おくるたびに斎場の庭から堰堤を眺め、堰堤の建設に汗していた自分と、その時、自分の周りにいた家族が重なつて思い浮かんでくる。

我が家の周りは今も閑散としている。東には、2年前に廃校となつた中学校の校舎や赤く綺麗なアーチを描いている愛本橋が見える。南にはくろへ牧場、北には黒部川の堤防が見えている。夜は相変わらず暗い。この季節、天の川を挟んで、こと座のベガやわし座のアルタイル、白鳥座のデネブが見える。夜更けには、さそり座も南中する。見上げる星空は今も昔も変わりが無いが、もし、見おかつた魂が空に召されているのなら、夜空のどこか片隅で小さく灯っているかもしれない。私は、今も時々ただぼんやりと星空を眺めている。

「自分に自信をもつ」

とらうとらう

魚津高校教諭 久和 聡 (魚高33回)



3年前、大阪
フィルハーモ
ニー交響楽団の
演奏会で司会を
させて頂いた。
音楽全般に詳し
くて指揮ができ
る人、というこ

とで依頼されたそう。曲紹介程度ならと気軽に引き受けたのだが、曲と曲の間が5分以上も取ってあった。結局、楽曲の解説だけではなく、指揮者や演奏者とトークをしたり、詩の朗読をしたり、しまいには、打楽器奏者に「NHKのど自慢」のオープニングテーマの即興演奏までしてもらった。さすがにやり過ぎたかなと反省したが、楽団の皆さんから、とても楽しかったですよ、と握手を求められた。

実は、小さい頃から自分に自信が持てず、人前で話すのが大の苦手だった。おそらく、昔の同級生は私のことをあまり覚えていないだろう。ある演奏会で指揮をした後に、小学校時代の同級生が話しかけてきた。「本当にあの久和君なの？」久和という名前に見覚えはあったものの、私に会うまでは半信半疑だったそう。確かに、私自身、自分が司会や楽団の指揮をしているのは不思議に思えるし、ましてや、教師の仕事に就いているのは奇跡に近い。だが、人は変わることができる。私の最大の

転機は大学受験だった。浪人させてもらう条件が「今度落ちたら就職」だったので、人生で初めて死ぬ気になって勉強した。それまでは、真剣に勉強法など考えたこともなかったが、駿台予備校でイロハのイから教わった。学習の基本は「読み・書き・そろばん」というが、それに必要な能力が論理的思考力だ。私には欠落した能力だったので、現代文や英文の読解法を学びながら徹底的に鍛え直した。おかげで、自信を持って模試に臨み成績を上げる、というかつてない経験を積み重ねることができた。大学入試の本番では、発熱に鼻づまりという最悪のコンディションながら、不思議と不安はなかった。自分に自信をもつことは、決して簡単なことではない。努力に結果が伴って初めて得られるものだからだ。ならば、結果を残すための最善の方法を考えて、そのために最大限の努力をするしかない。宝くじに当たるラッキーと試合に勝つラッキー。どちらのラッキーを求めるかが人生の選択となる。

原点 回帰



魚津高校教諭

上田 隼也 (魚高60回)

今年の4月、魚津高校グラウンド横の桜並木を久しぶりに見て、高校当時の光景を思い出した。高校時代は予習や課題、テスト・模試に翻弄されたりもしたが、体育大会や魚高祭、コンパ(クラス単位の研修旅行)、予餞会など多くの行事を通して友人たちと過ごした

日々はかけがえのないものになっている。また、個性豊かな先生方のご指導で臨んだ授業からはたくさんさんの刺激を受け、特に身近な現象を論理的に考える物理の面白さに魅せられたことを覚えている。

進路決定では、担任の先生に私のわがままに付き合ってもらい、「物理に携われて、かつ生徒の将来につながる手助けができる高校教諭」に興味をもつきっかけとなった。卒業して大学へ進んでからも「いつかは母校で教鞭を執りたい」という思いがあり、教員の道へ進んだ。

ご縁があつて、今年母校に戻ってくることで、とてもありがたく感じている。また担任として生徒たちと関わることができ、大変ながらも嬉しさと充実感を感じている。

また、久しぶりに聞いた校歌。「なやみあるわが友よ もろともに歌わずや」「紅はわが心 清らかに強くあれ」生徒時代は行事でことあるごとに歌っていた校歌だが、月日が経つて、当時以上に心に沁みだ。今の高校生は現代特有の膨大な情報、将来の不透明さや不安などにより、悩み、自信がもてず、目標を見つけられないという姿が見られる。一方で魚津高校生の素直さやひたむきに努力する姿勢も感じることで、伸びしろや可能性を感じた。魚津高校の生徒たちには恥ずかしさや失敗を恐れず、校歌にあるように悩みながらも果敢に挑戦してほしいと願っている。

今まで自分自身が経験してきたことをどれだけ生徒に還元できるかは分からないが、後輩でもある生徒たちの手助けとなれるように、私自身成長し続ける人間であれるようこれか

＊のコロナ禍を経て＊



弁護士法人
アウルス法律事務所弁護士

長 島 功 (魚高51回)

魚津高校を卒業し、早23年以上が経ちました。寄稿文のご依頼をいただき、参考にと過去の諸先輩方の文章を拝読し、高校時代を振り返ってはみたものの、自分でも驚くほど書けるようなことがなく、少し途方に暮れています。

私は現在、東京の浜松町にて、弁護士をしています。2020年6月に前事務所を辞め、同僚の弁護士と独立をしました。

開業直前には、初の緊急事態宣言も出て、浜松町駅から殆ど人がいなくなつたときは、何てタイミングで独立したものかと若干不安になりましたが、何とか現在まで執務を続けられています。

司法の場でもIT化やAIによる補完の流れがあり、このコロナ禍でそれがより加速したように感じます。将来、私の仕事も取って代わられるのだと思いますが、それでもやはり、人にしかできないことが必ずあるように思います。人に直接話をした、話を聞いてもらいたい、共感してもらいたいといった感情は、人である以上必ずあるはず。様々な行動制限があったこのコロナ禍において、そんな人と人との交流の大切さを改めて感じました。

依然落ち着かない状況ですが、皆様方との交流の場としてのこの同窓会行事が、今年こそは無事に開催されることを願ってやみません。

感謝できる人の数だけ、 幸せが広がる

魚津市立
道下小学校教諭 澤田 淳一 (魚高52回)

40歳になる年の1月、私は友人に誘われシニアリーグのサッカーチームに入った。冬の室内練習に参加するが、ワンプレイで体が悲鳴をあげる。体力が全くない。足元にボールがおさまらない。3月下旬、リーグが開幕。ユニホームに袖を通し、試合に出るのは高校生ぶりである。胸が高鳴った。20年以上、ともに運動はしていなかった。思い通りの動きはもろんでできない。それでも、チームメイトと一緒に勝利を目指し、全力でプレイすることが楽しかった。試合後は清々しかった。今回、寄稿文の依頼を受け、高校時代に想いを馳せた。小学校、中学校と何となくやってきたサッカー。高校で続けるつもりはなかった。しかし、入学早々、先輩に声をかけられ、結局、入部。3年間、続けることができた。

高校3年生の運動会。赤団の団長になるよう声がかかった。最初は断つたが、仲間の強い説得を受け、最終的には引き受けることになった。役割を果たせたかどうかは分からないが、私にとって大切な思い出となった。

私は今、小学校で勤務している。小学校教員になるという選択は、大学2年の夏、高校の友人と将来を語り合ったときに決断した。

これまでを振り返ると、仲間や周りの人の関わりが自分の人生を左右していることが分かる。「自分と出逢い、関わってくれた全ての人に感謝したい……」という何だかありきたりすぎて面白くない。でも、出逢ったみんなに「ありがとう」と思えること、それ自体がとても幸せなことだと感じる。自分が感謝できる人の数だけ、自分の幸せが広がるのかもしれない。



蟹気楼旋風再び

防衛省陸上自衛隊勤務



寶 嶋 賢 二 (魚高53回)

我が母校、魚津高校を卒業し、早22年が過ぎました。私は卒業後、神奈川県横須賀市にある幹部自衛官を養成する防衛大学校に進み、卒業後に陸上自衛官になり、今に至ります。皆さんご存知？の自衛隊一徹しいと言われるレンジャー訓練も修了しました。振り返って、今言えることは、「文武両道」、「紅魂」を旨とする伝統ある魚津高校で心身共に鍛え育てて頂いた基礎があるからこそ、今の自分がある。ということです。

高校時代を回想するとまず思い出すのは「部活」です。野球部では、適度に厳しい上下関係のもと、当時はまだスポ根的な時代でしたので、水分補給も制限され、罰走なども当たり前のきつい練習の毎日でしたが、あれのお陰？か過酷と言われる防衛大学校の生活もレンジャー訓練も乗り越えられたように思います。大袈裟でなく本当に。

次に思い出すのは「クラス」です。本当に笑いが絶えない楽しい教室が思い出されます。私はいかにみんなを笑わせるかばかり考えていました。勉強面でも、素敵でユーモア溢れる先生方の導きのもと学ぶ楽しさを知りました。

その次に思い出すのは「体育大会」です。3学年次は応援団で旗手をやりましたが、これぞ青春！の風景でした。心をついにした応援、ダンス、パネル。今も脳裏に浮かびます。最後に「仲間」です。高校生という思春期かつ人格形成の最終段階で苦楽を共にした仲間は宝で一生物です。今でも「ケンジ」と名前と呼んでくれるのは高校の仲間です。大人になってからの友人で、名前と呼ぶ人は皆無です。

私は今、陸上自衛官として国防を仕事とし、緊張感高まる安全保障環境下、「この国を守り抜く」という堅い覚悟のもと、日々訓練などに邁進しております。

この先どんな困難に直面したとしても魚校生として培った「紅魂」と「誇り」を胸に、負けずに乗り越えて、「蟹気楼旋風」を巻き起こします！いざゆかん魚校生??



全国・北信越大会壮行会



授賞披露



ダンス同好会



男子バスケットボール部



男子バレーボール部



卓球部



野球部vs大阪桐蔭



陸上競技部

第75回 魚津高校体育大会
 群蒼叫響
 ～轟かせ、僕らの共鳴～
 期日：令和4年9月2日（金）
 ※雨天順延時：3日（土）

8:20 開会式
 9:00 午前競技
 12:50 応援合戦
 13:40 午後競技
 15:30 閉会式

(時間は変更する場合があります)

123周年記念
2022 魚高祭
 共創 With U
 ～創ろう 新しい魚高～

第1日 9月22日（木）
 午後：一般公開
 第2日 9月23日（金祝）
 全日：一般公開

魚高生の活躍 (令和4年4月～7月)

- 陸上競技部
 - ・第75回富山県高等学校陸上競技対校選手権大会

男子砲丸投げ	2位	高山 晋太郎	2-4
男子110mH	3位	浜守 光映	2-2
男子800m	7位	石倉 稜羽	3-3
男子200m	7位	鈴木一之竜	2-1
男子200m	8位	中村 哉翔	3-4
- 男子バドミントン部
 - ・第41回全日本ジュニア富山県予選会新川地区大会

男子シングルス	1位	日野 優	2-3
---------	----	------	-----
- 男子ソフトテニス部
 - ・令和4年度ソフトテニス新川地区総体（金尾杯）

個人の部	優勝	舟田 笑	2-2
		舟川 和斗	1-2
- 女子ソフトテニス部
 - ・令和4年度ソフトテニス新川地区春季大会（村田杯）

団体戦	1位		
女子ダブルス	1位	森 有希	3-1
		小峰 充智	3-4
	1位	廣川 真夕	3-1
		上野星莉架	2-4
 - ・令和4年度富山県高等学校総合体育大会

個人	ベスト16	森 有希	3-1
		小峰 充智	3-4
- ソフトボール部
 - ・令和4年度富山県高等学校夏季大会

ソフトボール競技	2位	榎 真穂	2-3
----------	----	------	-----

- カヌー競技
 - ・第43回北信越国民体育大会カヌースプリント競技

少年女子カヤックペア	1位	晴枝 葵	2-3
------------	----	------	-----
 - ・令和4年度北信越高等学校体育大会

第8回北信越高等学校体育大会カヌー競技	2位	晴枝 葵	2-3
少年女子カヤックシングル500m	2位	晴枝 葵	2-3
 - ・令和4年度富山県高等学校総合体育大会カヌー競技

WK-1 500m	2位	晴枝 葵	2-3
-----------	----	------	-----
 - ・令和4年度富山県スポーツフェスタ

第75回富山県県民体育大会	1部	少年女子カヤックシングル	2位	晴枝 葵	2-3
---------------	----	--------------	----	------	-----
 - ・第24回早乙女湖カヌースプリント

ジュニア選手権大会	2位	晴枝 葵	2-3
-----------	----	------	-----
- 空手
 - ・第46回少年・第63回一般県空手道選手権

高校生 男子形	1位	山崎 洸希	3-2
	2位	伊東 倫晴	1-1
高校生 男子組手	3位	山崎 洸希	3-2
- 吹奏楽部
 - ・第50回富山県吹奏楽コンクール

金賞			
----	--	--	--

- 放送部
 - ・第61回富山県高校放送コンテスト

創作テレビドラマ部門	優秀賞	2位
創作ラジオドラマ部門	優秀賞	2位
テレビドキュメント部門	優良賞	
ラジオドキュメント部門	優良賞	
朗読部門	優良賞	
- 将棋部
 - ・第58回全国高等学校将棋選手権大会

男子団体戦	準優勝	伊東 智慧	3-2
		館 知太郎	2-1
		米山 蓮	2-2
 - ・読売新聞社第35回全国高等学校将棋竜王戦富山県大会

男子個人	5位	館 知太郎	2-1
------	----	-------	-----
- ダンス同好会
 - ・全国高等学校ダンスドリル選手権大会2022甲信越大会

ヒップホップ男女混成部門スモール編成	1位
ヒップホップ男子部門スモール編成	1位
ヒップホップ女子部門スモール編成	1位
- 囲碁
 - ・第46回全国高等学校囲碁選手権大会富山県予選会

男子団体戦	優勝	永田 大和	2-1
		米田 有佑	2-1
		橋 奏成	2-3
男子個人戦	優勝	永田 大和	2-1

原稿募集のお願い
 本校同窓生で「こんな方を知っている」「こんな方が活躍している」という方はいませんか？自薦・他薦は問いません。原稿をお寄せ下さる方募集しています。

富山県立魚津高等学校同窓会
 〒937-0041 富山県魚津市吉島945番地
 TEL (0765) 22-0221
 FAX (0765) 22-9970

同窓会ホームページ
<http://uozu-dosokai.net/>
 魚津高校ホームページ
<http://www.uozu-h.tym.ed.jp/>